

# 僕のヒーローアカデミア episode01

エイクマン

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

無個性の少年《飛電花音》彼は人の笑顔が大好きな子だ。もつと人を笑顔にするために

幼なじみの緑谷出久とヒーローになるために雄英高校を目指す……

中学3年のある日、花音は祖父と祖母に謎のベルトを一つ渡される。

沢山の人を笑顔にするため強き自分に変身する!!

ライダーの到ライダー  
!!!!  
』

『仮面

# 目次

プロローグ ————— 1

【第一話】お、俺が変身？ パート 1

7

【第二話】お、俺が変身？ パート 2

17

お、俺が変身？ パート 4 ————— 27

# プロローグ

緑谷 side

人は生まれながらに平等じゃない

「ひどいよかつちゃん…！泣いてるだろ!?…：…これ以上は」

「僕が許さやなへぞ！」

「無個性のくせにヒーロー気取りかデク！」

「これは齢四歳にして知った社会の現実。」

………  
だけど

「ちよーつと待った!!!」

「またお前か……花音？」

オールマイトや、プロヒーローとはまた違うヒーローが僕には、いる

「そう！また俺!!何回言ってるけどこんなことしちゃダメだよ？みんな笑顔がいちばん!!」

凄くカッコいい……

「そうすれば幸せハッピーでしょ？」

ヒーローだ！

「そうだ！俺の爆笑ギャグみせてあげるから！」

はい！カノンじゃあないと！

「ジュースうめえと言う十数名！！

…  
カッコいいヒーローだ……………

「出久くん大丈夫？なんかあったら大声で呼んでっていつも言ってるだろ？えんりよせ  
ずに呼んでくれよ！」

「う、うん：： ありがとう花音ちゃん：：！」

「いいの！いいの！これくらいお礼なんて言わなくて!!」

飛電花音ちゃん。僕と同じ無個性だけどいつも助けてくれるすごくやさしい友達

男の子のはずなのに女の子にしか見えない：：：：。じつは女の子でしたって言ってくれるほうが信じられるくらいかわいい

あといつも一発ギャグを言うけどおもしろくはない：：：：。本人にとっては爆笑ギャグらしい、おもしろくないけど。

でも元気がもらえるのは事実だ。だけどこまってる人や、泣いてる人をたすけるのはいいんだけどそのあと毎回

一発ギャグをやるのは幼なじみとして少しはずかしいところがある：：：

「つてあれ：： 花音ちゃんは？」

どこに行ったんだろうさつきまで隣に「あつたよ！ボール!!」



「いやあまさか池のなかにあるなんて！でもよかった…はい！」

やつぱりすごいや花音ちゃんは……ん？

「どうしたの？そんな顔して？…そうだ！俺の爆笑ギャグみせてあげるから！」

さつき花音ちゃん池のなかにあつた言つたよね…？

「イワナ出でよ、とか言わないでよ！はい！カノンじゃあないと！」

じゃあ今、花音ちゃんの服は……

「あのお姉ちゃん服ビショビショだけどだいじょうぶ？」

「ぜんぜん大丈夫！平気平気!!」

「花音ちゃん!!ぜんぜん平気じゃないよ!?!はやく帰らないと風邪ひくよ!?!行こー!」

「お、おう……じゃあね!!もうボールなくすんじゃないぞ〜!」

本当にやさしいなあ花音ちゃんは……僕もがんばらないと!!!ぜったいに!!!

「ヒーローになるぞー!!」

「うお!?!ビックリした……おー!!」

# 【第一話】お、俺が変身?パート1

事の始まりは中国軽慶市”発光する赤子?”が生まれたというニュースだった!  
以降各地で「超常」は発見され原因も判然としないまま時は流れる…:  
いつしか「超常」は「日常」に……………

げんじつ

ゆめ

「架空」は

「現実」に!!!

世界総人口の約八割が何らかの特異体質である超人社会となった現実!

混乱渦巻く世の中で!かつて誰もが空想し憧れた一つの職業が 脚光を浴びて  
いた!!

《くるんじやねえええええ!!!》

「怪物化とかすげー”個性?何やらかしたん?”「引ったくり、追い詰められて暴れたん

だと」

ヴイラン

「敵・出ちやって… 電車も… ええ会社着くのいつになるか…」 「キヤーガンバ  
レーカムイー!!」

プハ 「誰戦ってます!」

〔緑谷出久〕 <14歳>

「通勤時間帯に能力違法行使及び強盗知傷…まさには邪悪の権化よ」

「〔シンリンカムイ〕!! 人気急上昇中の若手実力派!!!」

「聞いたいて解説か? 兄ちゃん… オタクだな!!」

「あ いや うへへ…」

ちようかい

「〔懲戒〕 「一発見せろよ樹木マン!!」

「あ! 出ますよ!」

せんせいひつぱく…

ウルシさろう!!!

「先制必縛…」

「ウルシ鎖牢!!!」



!!!

【国から収入を!!!】【人々から名声を

ブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツ  
ツブツブツブツ巨大化か：： 人気も出そうだし凄い”個性”ではあるけどそれに伴う町への被害も  
考えると割と限定的な

活用になっていくか? いや：：： 大きさは自在かそれか：：

ブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツブツ  
ツブツブツブツ

「おいおいメモて!!ヒーロー志望かよイイネ頑張れよ!!!」

「：：：：！っはい!!頑張ります!!」

緑谷 s i d e

「えー、おまえらも三年ということだ!!本格的に将来を考えていく時期だ!!  
今から進路希望のプリントを配るが 皆!!!」

ヒーロー科志望だよー

「だいたい

ハーーーーー

「うんうん皆良い個性だ。でも校内で個性発動は原則禁止な!」

「せんせえー〔皆〕とか一緒にすんなよ!!」

「俺はこんな〃没個性?共と仲良く底辺なんざ行かぬー

よ」〔爆豪勝己〕 <14

歳>

「そりやねーだろカツキ!!!」

《モブがモブらしくうっせー!!!》

「あー確か爆豪は〔雄英高〕志望だったな」

「国立の!?今年偏差値79だぞ!!?」 「倍率も毎度やべーんだろ!?!」

「そのざわざわがモブたる所以だ! 模試じゃA判定!!俺はウチ唯一雄英圏内!」

「あのオールマイトをも超えて俺はトップヒーローと成り!!必ずや高額納税者ランキン  
グに名を

刻むのだ!!!」

「あ」

「そいやあ緑谷英雄英志望だったな」

「はああ!?!緑谷あ!?!ムリっしょ!!」 「勉強出来るだけじゃヒーロー科入れねえんだぞー  
!」

『そんなことはない!』



「ツハア… やつと来たか飛電何で遅れたんだ… とは言わなくても、もうわかる大丈夫か?」

「ボロボロだが…」

『大丈夫です!こんな平気平気。つあ!出久君!おはよ!!』

「花音ちゃん…!お、おはよう…」

花音ちゃんまた人助けしてたんだ… 凄いや、やつぱり…

「こらあ!!お前ら!!!」(BOOOM!!!)

「どわ!!」

「没個性どころか” 無個性? ”のてめエらがあゝ! 何で俺と同じ土俵に立てるんだ!!?」

「待つ…：ち、違う　待つてかつちゃん…！　別に張り合おうとかそんなの全然、本当だよ！」

ただ…：小さい頃からの目標なんだ…：花音ちゃんとの…：それに　やってみないとわかんないし…：」

そうだ、ずっと目標だったんだ…：ヒーローになるのが花音ちゃんと一緒に困ってる人をたくさん助けるのが…：花音ちゃんも笑顔が大好きだから小さい頃からヒーローになりたいっていつてたし…：

「なアにがやってみないとだ!!記念受験か!!」

【てめえらが何をやれるんだ!?!?】

『出来るよ!!絶対に出来る!出久君はすっごいんだよ!困ってる人を沢山助けられるヒーローに』

必ずなる!笑顔に出来るヒーローに必ずなる!勿論、俺もなる!!人を沢山笑顔にする

ヒーローに

なる!その心が有れば何だってやれる!!だから俺たちは雄英高校を受ける!!」

「意味わかんねえ事言ってるじゃねえ?!?!?」

『とにかく!俺と出久君は雄英高校を受ける!!それだけじゃあこの話終わり!』

「勝手に終わってるじゃねえ!?ぶっ殺すぞ!!」

『怒るなって そうだ!俺の爆笑ギャグ見せてあげるから!!』

ええ.: 花音ちゃん今やるの.: ?やめといた方が.: .:

「別に見たくもねえんだよ!お前のクソつまんねえギャグなんて?!?!?」

『メール等送信で、滅入る闘争心!はい!カノンじゃあないと!!』

「だから見たくねえって言ったんだよクソが！ぶつ殺すぞ!!」

.....  
だからやめといた方が良かったのに.....

## 【第二話】お、俺が変身?パート2

「花音… 将来は何になりたい?」

『ヒーローになりたい! たくさんの人を笑顔にするヒーローに!! もちろん父さんも笑顔にする!』

「そうか… 頑張れよ、花音。」

「か… のん… …… だ… いじ… よ… ぶ… …… か… …… ?」

『父さん!! やだ! やだやだやだ!!! 死なないで…… !』

「かの… ん… …… へ… …… ん… し… …… ん… …… し… ろ… …… つ… …… よい… …… ぶ… …… ん… …… に… …… …… 」

『父さん!!!』

花音 s i d e

『父さん!!!……何だ夢か……寝よ』

今日はまだ日曜日のはず……だって目覚まし鳴んないって事は設定してないって事だし

アラームONが、あらー無音……はい、カノンじゃくないと……

……無音……? 確か昨日……ばあちゃんが目覚まし壊れてるから修理にだす……  
す……  
!!!!!!

『やっべー!!!!!!!!!!!!!!遅刻するうう!!!!!!!!!!!!!!』

ヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイマジでヤバイ!この前、「遅刻したら宿題、倍な」って言われた

ばっかりじゃねえかあ!!!!!!!!!!

「おお・・・おはよう花音ちゃん。」

『じいちゃん!おはよう!!そしていつてきまあああす!!!!!!』

宿題 倍ほど地獄なものはない!ないぞお!!!

宿題増えるだけで自由がどれだけ奪われると思ってるか、先生は分かってない!まず怒られるでしょ

、それでも謝るでしょ、終わるまで部屋から出れないでしょ、あああ、有りすぎてヤバイ!?

.....何か色々考えてたら腹減ってきたな.....でも今でないと完全に遅刻だし、で

も飯も食いたいし…

どーすればいいんだよおおお!!!  
か……

「ただいまあ」ん? ばあちゃん帰ってきたの

「花音ちゃん! ちよつと居間まで来てくれる?」

『え! う、うんゝわかつたゝ』

ヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイ!  
つだよ!

めちやくちやに! めちやくちや! に怒られちゃうやつだよ! ……  
終わった…俺  
の自由…

「おお、花音ちゃん来てくれたか…」

『ハ、ハイ… イマ、キマシタ。』





「花音ちゃん、別に怒ってるわけじゃないのよ？」

「そうじゃよ、わしらが花音ちゃんの何を怒ってると思ったんじゃ？」

『遅刻ばかりしてるのがばれて怒ってるんだと……』

だってそれ以外思い当たらないし……

「花音ちゃんが遅刻ばかりしてることなんて知ってるわよバレバレよ？」

「それに花音ちゃんの遅刻の理由は寝坊か、人助けじゃろ！」

ま、まじですか…… バレバレですか…… アハハハ…… ??

『じゃあ何で呼んだの？』

「…………… 花音ちゃん、其雄を…………… お父さんを覚えてるのか?」

『当たり前じゃん!!父さんを忘れるはずないよ……………』

だって俺のせいで父さんは死んだんだ…………… 俺に力があつたら……………

「其雄は、お父さんはね、ヒーローのサポート製品を開発してる会社の社長だったの」

つえ…………… ?父さんが社長???

「花音ちゃんも知つての通りわしら飛電家のほとんどは無個性じゃ……………」

もちろん其雄も無個性じゃつたら?

だが其雄はある物を造り出した無個性でも個性持ちに負けない力を…………… それがこれ

じゃ……………」

何だ…………… これ?ベルトのバックルかな??二つもある……………

「こつちが滅亡迅雷フォースライザー、そしてこつちが飛電ゼロワンドライバー、まだベルトは他

にもあるが今は使えない… 花音ちゃん、こつちのフォースライザーを持ってはくれんか？」

『つえ？でも大切な物なんじゃ。』

父さんが造つてじいちゃんとかあちゃんに渡した大切な物を受け取れるはずがない… それに俺が

受け取る資格なんて…

「使わなければ意味ないわよ。それにこのベルトは全部、花音ちゃんのために其雄が造つたのよ」

『父さんが俺のために??どうして』

「其雄はいつも花音ちゃんの事を考えてた… どうしたら花音ちゃんのためになるか。」

の……  
どうしたら無個性でも個性持ちにも負けない力を、花音ちゃんの夢を叶えるため

ム  
ヒーローになるための力をそうして寝る間も惜しんで開発したのがライダーシステ

ム  
「仮面ライダー」じゃ。」

『仮面ライダー?』

「花音ちゃんが心から今は使うべきだと思っただらそのベルトを腰に装着しなさいそうす  
れば

後は頭のなかに入ってくるわ」

これを使えば俺も力が手に入る………  
沢山の人を笑顔に出来る。

そんなの答えは決まってるじゃないか……

『使わせてもらうよ！じいちゃん、ばあちゃん、父さん!!』

強い自分に変身するんだ!!

# お、俺が変身?パート4

P M 0 : 0 2

・ キャアアアア  
!!!

「強盗だア!!! 誰かああああ!!」

【捕まえられるもんなら、捕まえてみなあ!!!】

「すぐ誰か来るのにな」「今朝の混乱に乗じたんだろ? 個性もて余してる奴何ていくらでもいるし」

「キリねえな」

「キリはある... 何故って?」

「私が来た!!」

緑谷 side

「カラオケ行こーよ」「それっきやねーな!」

今朝の事件ヤフートップだ!早く帰ってノートにまとめなきや……

『出久君!帰ろうぜ?』

「っあ、花音ちゃん!そうだね帰ろっか」

…… それにしても花音ちゃん成長したら男らしくなるのかなって思ったけど……  
何かもう完全に女子!

制服に違和感しかない!!!!個性の影響ですって言えるくらいだよ……僕と一緒に無個性だけど



『出久君どうしたんだ、固まって?』

「っ!ご、ごめんねちよつと考え事してた...」

『そっか!でも出久君いつでも俺に相談してくれていいんだぜ?昔から言ってるだろ出久君が助けて欲しいときは必ず助けにくくって!遠慮しなくていいんだからな!!』

「うん、ありが」話はまだすんでねーぞデク、花音」

「カツキ何ソレ?」「[将来のための...]マジか!?くく緑谷く!!」

『おい!返せよ!そのノートは出久君の大切なノートなんだ!』

「ああ?そうかな...それがどうしたあ!」ボム!!!

「あー!?!?!」

!?!?!

っそ、そんな!?ぼ、僕の!?

「ひどい...!!」

「一線級のトップヒーローは大抵学生時から逸話をのこ『出久君のノートが!?待て!!!』

……花音ちゃん!?!? つえ!ちよつ今花音ちゃん飛び降りたよね…

!?!?!?!?

「花音ちゃああん!!!」

「おい、大丈夫なのか…今あいつ今ノートと一緒に飛び降りたけど…カツキ?死んだらどうすんだよ

幼なじみだろ」

「大丈夫だろ…花音は、昔からあんな感じだ…」

確かにかつちゃんの言う通り花音ちゃんは昔からいつも変わってない…体、丈夫だよね…アハハ

「つまあいい、俺はこの平凡な市立中学から初めて!唯一の!【雄英進学者】つっ”箔?をつけてーのさ。まー完璧主義者なわけよ」

みみっちい…

「つーわけで一応、雄英受けるなナードくん」

「……」

「いやいやさすがに何か言い返せよ」「言つてやんなよかわいそうに中三に、なつてもまだ彼は現実が見えてないのです」

「つあ! そんなにヒーローに就きてんなら効率良い方法あるぜ? 来世は個性が宿ると信じて屋上からのワンチャンダイブ!!」

「っ!!!」

『いい加減にしろよ!』

「んだよ?」

『いくら勝己君でも! 許すわけにはいかない!! 早く出久君に謝れ!!!』

「うっせえ! 何だ謝んなきや行けねえんだよ!?! ぶっ殺すぞ!?!」

『勝己君はソレしか言えないのか!』

「うっせえ!!どけえ!!!」  
『うわ!?』

『… 出久君気にすることないって無個性がヒーローになれないなんて誰が決めたんだよ? 出久君は絶対にヒーローになれる!俺が保証する!』

「うん… ありがとう花音ちゃん」

『はい!ノートちよつと濡れちゃった… ごめん』

「ううん全然大丈夫だよ!」

やっぱりすごいや花音ちゃんは… 優しいし、いつも励ましてくれる僕はいつも助けられてばかりだ

お母さーん パソコンー!

「またあ!?!もー出久だけで再生回数一万は増やしてるね お母さんは怖くて見れんわ、花音ちゃんも怖くないの?」

『ぜーんぜんこわくないです!』

それは古い動画 昔から起きた大災害その直後の…

「見えるか!!?もう百人は救い出してる!!やべえって!!まだ10分もたつてねーって!!やべえって!!!」

一人のヒー

ローのデビュー動画だ

「めっちゃ笑ってんよ!!!」

「もう大丈夫!何故って!?!」

「私が来た!!」

「超カッコいいなああ!!僕も個性出たら、こんな風になりたいなああ!!」

『出久くんぜつたいになれるよ!すごく優しいもん!!』

「あ、ありがとう花音ちゃん!」

「諦めた方がいいね」

「そんな...! やつぱりどこか悪いんですか? 幼稚園の子たちはもうほぼ発現してるのにこの子は...」

「失礼 奥さんは第四世代ですね? 個性の方は...」

「ええもちろん... 私はちよつとしたものを引き付けるくらいで夫は火イ吹きます」

「本来なら四歳までにそのどちらかあるいは複合的個性が発現するんだけどね昔超常黎明期に一つの研究結果発表されてね足の小指に間接が有るか無いかって流行ったの人

間使わんところは必要ないってなもんでね無い人の方が型としてはまア新しいと!」

「出久くんには間接が2つあるこの世代じゃ珍しい!」

だよ

《何の“個性”も宿ってない型

「めっちゃ笑ってんよ!!!」

「……お母さん」

「どんなに困ってる人でも笑顔で助けちゃうんだよ」

「超カッコいいヒーローさ………僕も……なれるかなあ?」

「ごめんね出久ごめんね……!!」

ああ違うんだ　　違うんだお母さんあの時　僕がいつてほしかったのは……

---

花音 side

俺には父さんがいた優しくてかっこよくて大好きだった

ある日父さんと一緒に公園に行ったとき男の子がいたそれが出久君だった。一緒に遊んですごく楽しかった俺の爆笑ギャグは

何故か笑ってくれなかった、いつか絶対にギャグで笑わせようと心に決めた

夕方になって父さんに帰ろうと言われたときは出久君と離れたくなくて大泣きしたら出久君はまた遊ぼうといってくれて

もう友達だよと言われた瞬間めちやくちや嬉しかった。この瞬間は人生で忘れることはないだろう



そのあとも出久君と遊んでるうちに勝己君とも出会った友達が増えてすごく嬉しかったな

ある日ヴィランに襲われた　もうここで死ぬんだと思った　父さんが僕を庇った

父さんは重症なのに何故か笑っていた　俺に泣いてほしくない最後に一緒に笑いたって言っていた

その時の俺はうまく笑えてたかわからなかったけど…　父さんも嬉しそうだったから笑えてたんだと思う

最後に強い自分に変身しろと言って父さんは死んだ

その日からは人助けを今まで以上に頑張った

じいちゃん、ばあちゃんと病院に言ったら無個性だと診断された

夜、出久君から電話がかかってきた出久君も無個性だった、その時から俺は決めた出

久君を守ろうって

出久君は一番の友達だから……

強くなる!!! 出久君を守って沢山の人を笑顔にするそんな自分に变身するんだ!